

D-5 道徳判断の発達段階に肉する研究 II

日本女大家政 ○北川はるみ 宇川和子 石井富美子 望月登志子

目的 本研究は、道徳判断の発達段階に肉する Kohlberg 説の検証を目的とする研究の才Ⅱ報である。彼の発達段階は、慣習や規範の考え方によって、3レベル（Ⅰ前慣習的レベル Ⅱ慣習的レベル Ⅲ自律的原則のレベル）に分けられ、更に各レベルは2段階に分けられる。ここでは、対象を成人女子とし、大学生群と母親群を比較することによって、その検証を試みる。また、道徳判断と知的要因の才とつである学歴との肉連について才も検討する。

表-1

	人数	年齢	平均得点	標準偏差
大学生群	20	20.0	291.9	26.62
母親群	26	35.2	319.3	47.77
大卒。	17	34.9	330.0	56.89
進卒。	10	35.9	310.4	26.74
高卒。	9	35.1	302.9	33.16

才法 被験者の人数・年齢・学歴は、表-1の通りである。1人/回、30~40分の個人面接で、道徳判断を必要とする葛藤場面を例話で示し、6~10の負向項目について判断を求める。この例話は、Kohlberg が用いたものの中から、3例話を採用した。また、負向項目は、JATASURIAを参照した。

結果と考察 結果は表-1の通りである。Ⅰ年齢と道徳判断の肉連 道徳判断の得点は、母親群の才が大学生群よりも高得点となり、才いる ($P < 0.05$ 才有意)。従って、成人女子において、年齢と共に道徳判断の成熟度が上昇することを示している。Ⅱ道徳判断と知的要因との肉連

母親群を最終学歴の程度によつて3群に分け（年齢要因はほぼ等質）比較してみると、学歴の高才群ほど道徳判断の得点が高くなり、年齢要因だけ才なく、道徳判断と知的要因との肉連が見出され、この点、従来の結果と一致している。